

VI. 立教チームとしてのボランティア参加〈動く：参加〉

1. 1dayボランティア

「東京都障害者スポーツ大会（主催：東京都、公益社団法人東京都障害者スポーツ協会）」

都内最大規模の障害者スポーツ大会である「東京都障害者スポーツ大会」は、「東京都身体障害者スポーツ大会（昭和26年～）」と「東京都知的障害者スポーツ大会（昭和59年～）」を統合したもので、平成12年から開催されている。全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねており、2022年度は栃木県で開催される第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」につながる。

① 陸上競技（知的部門／身体・精神部門）

活動日	2022年5月21日（土）、22日（日）、28日（土）		
場所	駒沢オリンピック公園総合運動場 陸上競技場		
実施目的	(1)「立教大学チーム」としてボランティア参加する機会を設けることで、より多くの学生がボランティア活動への参加の一步を踏み出せるようにすること。 (2) スポーツボランティア活動を通して、「障害者スポーツ」の実態やしょうがいのある競技者へのサポートについて実践的に学ぶこと。 (3) 大会の成功に貢献すること。		
参加者	学生：14名／ボランティアコーディネーター：1名		
役割	5/21（土）知的部門	5/22（日）知的部門	5/28（土）身体・精神部門
	- 競技者招集・誘導 - 表彰	- ハガー ^{※1} - 競技後の誘導 - 閉会式 旗手	- 競走競技 招集・誘導 - 競技結果の記録

※1「ハガー」…走競技の際にゴール付近でゴール後の競技者を受け止め、表彰場所までの誘導を行う。ゴールしたことに気付かない競技者がいると他の競技者と接触し互いに怪我をするため、それらを未然に防ぐ知的部門ならではの役割。

■ 知的部門：5月21日（土）、22日（日）

1日目に立教チームが担当した場所は、競技者の受付・招集エリア。競技開始前に受付をした競技者は、ゼッケンをつけ、自分が走る組・レーンに並ぶのだが、立教生はここで、ゼッケンが指定の位置につけられているのかを確認したり、決められた順番に並べるように誘導したりした。スタート時間が近づくと緊張して待機場所から離れてしまう競技者もいたが、学生が競技者に寄り添いながら落ち着いて待機できるように声をかけていた。

2日目は、「ハガー」を担当。競技者のゴールの瞬間に立ち会うため、喜びも悔しさも目の当たりにするのだが、学生は「お疲れ様でした」「おめでとうございます」と、競技者一人ひとりに合わせ労いの声をかけながら誘導していた。閉会式では、立教生全員が旗手を担当させていただくなど、大会の運営に大きく関わることができた。

■ 身体・精神部門：5月28日（土）

身体・精神部門では、競技者の招集・誘導と競技結果の記録を担当。招集場所から離れたスタート地点まで誘導する際には、学生が義足の方や車いすの方、視覚しょうがいのある方に対して、それぞれの進むスピードに合わせながら他の競技中の選手と接触しないように誘導していた。

■ 参加した学生の振り返りから（原文ママ）

- 知的障害を持つ方と近い距離で関わることは初めてだった。感情をそのまま出す方や、何も見せない方など様々な性格の方がいることを実感した。そのため、声の掛け方が難しく、あまり積極的に話をする事ができなかった。しかし、達成感や悔しさを滲ませた選手たちの表情を近くで見ることができ、非常に感動した。障害を持つ方の性格は十人十色であると思うが、誰に対しても気分の良い対応の仕方を学び、考えたいと感じた。

〈文学部 教育学科 1年〉

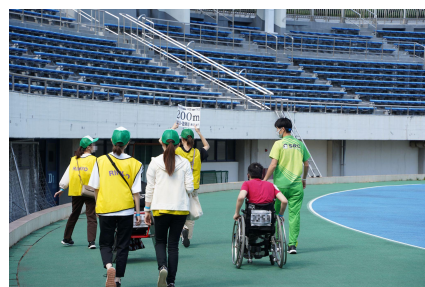
- 一般的なスポーツ大会と比べて選手を直接的にサポートすることができ、選手を身近な存在に感じられました。また、「ハガー」という貴重な体験を通して選手とコミュニケーションを取り、選手一人ひとりの個性を感じ取ることができました。
選手が走り切った後に顔を合わせても、選手的心情を汲み取ることが難しく、どのように声をかけたら良いか悩む場面もありましたが、他のボランティアの方も一緒に声をかけてくれることも多く、安心してサポートすることができたと思います。
〈文学部 文学科（英米文学専修） 4年〉
- 招集の際、ご自身の手術の経験や今まで経験してきたことなどを年齢性別関係なく楽しそうにお話している方をたくさん見かけ、パラスポーツだけでなく日常的にも障害者の方とお話をする機会を作れたらいいなと感じました。
〈文学部 文学科（英米文学専修） 3年〉
- 今まで福祉学科の授業で障害の特性や支援等を学んできたが、実際の誘導の際の声掛けなどが難しかった。授業を通して映像や文字で学んできたことを実践するには、多くの経験を積む必要があると思ひ、今後のボランティアにも積極的に参加していきたいと感じた。
〈コミュニティ福祉学部 福祉学科 3年〉
- 100メートル走や1500メートル走などのよく見る競技も行われるなかで、障害者スポーツならではの競技、電動車椅子で行う楽しむためのレースがありました。競技者も、子供から高齢者まで、100メートル走では義足を付けて14秒台くらいのタイムで走れる実力のある選手もいて、さまざまな人がそれぞれのやりかたでスポーツに取り組んでいて、障害者スポーツではそれが認められているのだなと思いました。
〈観光学部 交流文化学科 3年〉



▲知的部門：ハガー



▲知的部門：閉会式の旗手



▲身体・精神部門：選手の誘導

2. 1dayボランティア「東京マラソン2023（主催：一般財団法人 東京マラソン財団）」

活動日時	2023年3月5日（日）9：30～17：00
場 所	大手町プレイス カンファレンスセンター前
実施目的	(1)「立教大学チーム」としてボランティア参加する機会を設けることで、より多くの学生がボランティア活動への参加の一步を踏み出せるようにすること。 (2) スポーツボランティア活動を通して、スポーツがもつ価値や課題を実践的に学ぶこと。 (3) 大会の成功に貢献すること。
活動内容	フィニッシュエリア（東京駅・行幸通り）での手荷物返却
当選人数 （定員）	チームエントリーの末、 2チーム 合計30名（1チーム：リーダー1名・メンバー14名）分が当選した

① 募集説明会

実施日時	2022年12月12日（月）12：40～13：15
場 所	池袋：5号館 5124教室／新座：3号館 N213教室 ※オンラインで同時中継
内 容	・ 募集要項の配布 ・ 募集内容や申込み方法についての説明
参加者	参加学生：池袋49名・新座16名・オンライン83名（申込：196名） ボランティアセンタースタッフ：池袋4名、新座3名

両キャンパスをオンラインでつないで実施。申込者が想定を大幅に超えたため会場を規模の大きな場所に変更するなどをして実施した。

② 事前説明会

実施日時	2023年3月4日(土) 13:00~15:00
場 所	池袋キャンパス M302教室
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当日使用物品の配付 ・ 全体：手荷物返却の活動内容や当日の動きについての説明 ・ チーム別：アイスブレイク、当日の配置の確認
参加人数	参加学生：25名 ※2名は事前キャンセル / ボランティアセンタースタッフ：3名

リーダー2名が、「活動別ボランティア説明会」に出席し確認した当日の動きを立教チームのメンバーに共有した他、当日使用するウェアや帽子、ナップサックなどのグッズ配付を行った。

後半はチームごとに分かれ、アイスブレイクを通して互いの名前を覚えたり、当日の配置と休憩グループなどの確認をしたりした。



③ 東京マラソン2023 当日

活動日時	2023年3月5日(日) 9:30~17:00
場 所	大手町プレイス カンファレンスセンター前
活動内容	約1400人のランナーに対する手荷物返却
参加人数	参加学生：25名 ※2名は事前キャンセル / ボランティアセンタースタッフ：3名

大手町プレイス カンファレンスセンターにて、フィニッシュ後のランナーへの手荷物返却を行った。まずは、カゴ台車で運ばれてくる1400人分の荷物を返却しやすいように並べ替えたのだが、2人1組となり、協力し合いながらスムーズに進めていた。

14時前後からは、到着し始めたランナーへの手荷物返却を開始。取り違えないようアスリートビブスの番号と荷物番号が一致していることを確認して、労いの言葉とともに荷物をお渡しした。大勢のランナーが押し寄せた際も学生一人ひとりがリーダーシップを発揮し、丁寧に対応しており、無事に全ての手荷物を返却することができた。



3. 農業体験 in 山形県高島町

<p>学生ボランティアの可能性を広げる新たなフィールドの開拓・実践として、有機農業の里として有名な上和田有機米生産組合との交流を図りながら、農・食・環境を考える「農業体験 in 山形県高島町」を実施している。</p>
--

① 次年度打合せ

実施日	2022年6月26日(日)
場 所	山形県東置賜郡高島町
実施目的	次年度の「農業体験 in 山形県高島町」の再開に向けて、スタッフにおける関係性の構築と活動スケジュール・活動内容に関する具体的なイメージの共有を図ること。
協力者	<ul style="list-style-type: none"> (1) 渡部 宗雄 さん (農事組合法人 上和田有機米生産組合 相談役) (2) 戸田 雄市 さん (農事組合法人 上和田有機米生産組合 副組合長理事) (3) 皆川 直之 さん (農事組合法人 上和田有機米生産組合 総務部長) (4) 後藤 輝彦 さん (農事組合法人 上和田有機米生産組合 販売部長) (5) 菊池 良一 さん (農事組合法人 上和田有機米生産組合 顧問) (6) 星 寛治 さん (農事組合法人 上和田有機米生産組合 顧問)

コロナ禍で中止が続いていた「農業体験 in 山形県高島町」の再開に向けて、学生ボランティアの受け入れ担当者との打合せ、活動場所・宿泊施設の確認などを行った。

特に、活動に関する感染症対策やそれに伴う募集人数の設定などについて、施設の見学なども行いながら丁寧に確認した。